社会科学習指導案

日時　平成 28 年 5 月 13 日（金）　第 2 校時
児童　越谷市立文教小学校　3 年 1 組　45 名
場所　3 年 1 組教室
授業者　石原 琢充

１.単元名　「わたしたちのまち・越谷市」
　小単元　「何でそうなの？　越谷市！」

２.単元目標と評価
（1）目標
　越谷市の土地利用は、市内の地形といった自然条件による影響があること、住宅や建物の立地は交通網の影響があることを理解する。すなわち、日常のくらしの中で見慣れていることやものにも何らかの理由があって、今、見るようになっていることを調査を通して理解する。
　さらに、こうした調査・理解によって越谷市の風景の美しさやそこに込められた人々の営みに気付かせ、越谷市に対する誇りや愛情を育てるようにする。

（2）評価規準

ア関心・意欲・態度	イ思考・判断・表現	ウ観察・資料活用	エ知識・理解
○越谷市における土地利用や地形の様子に関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことが出来た。 ○越谷市に対する誇りと愛情を持つことが出来た。	○越谷市における土地利用が地形という自然条件、交通の便という社会的条件と関係のあることを予測し、ノートや白地図に分かり易く書くことが出来た。	○観察したことを的確に白地図に表現したり、教師が提示した写真から何らかの特徴を読み取ったりすることが出来た。	○越谷市の調整池・調節池は地形と川に関係のあること、また調節池が巧みに自然環境を作り出していることが分かる。 ○越谷市の住宅や商業地は、鉄道やバス、国道等の交通網に大きく影響されていることが分かる。 ○越谷市には緑が多くあり、それが保全されていることに気付く。

3.単元について

（1）学習指導要領との関連

本単元は、第三学年及び第四学年学習指導要領の「内容（1）自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）について、次のことを観察したり、調査したり、白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。」を受けて設定したものである。

「自分たちの住んでいる身近な地域」とは、自分たちの通う学校の周りを指すことから、文教大学小学校（文教大学を小学校として考えた際）周辺や北越谷駅周辺をとりあげ、「場所によって」「地域の様子が違う」ことを交通網と関連付けて考えさせるところから始める。

また、この単元では大学の周りや北越谷駅周辺から少し視野を広げ、越谷市の地形や自然条件と土地利用の仕方との間にある関連についても考えさせることをねらいとしている。

（2）教材について

文教大学小学校がある地域は、越谷市のコミュニティ 13 地区のうちの荻島地区になる。しかし、交通の便と土地利用との関連について学習させたいため商業施設や北越谷駅のある北越谷地区も「学校のまわり」とみなし単元の導入とする。

第 2 次からは、東武伊勢崎線沿線の新越谷駅や国道 4 号線沿いの商業施設なども「地域の様子」を比較するために学習対象に含めた。

第 4 次では、越谷市の地形や自然条件について考えさせたいため、市内の大吉調節池と大相模調節池を教材として使用する。児童にとって大相模調節池のある越谷レイクタウンは、なじみの深い地域であり、教材として扱うのに無理はない。

さて、本単元では学習指導要領に従い、「身近な地域や市（区、町、村）の特色ある地形」をとりあげた。越谷市の「特色ある地形」とはどのようなものか。

①越谷市はすべて平地である

越谷市域はすべて平地だということを第一の特色としてあげなくてはいけない。越谷市は全市域が大宮台地と下総台地にはさまれた中川中流域の沖積平野に位置している。そのため、市内には丘陵や台地はみられない。したがって、学習指導要領（小学校中学年）にある「高い土地」と「低い土地」を対比させ、その土地利用の違いに気付かせるという学習は、市内だけに着目させている限りできない。そこで、今回は越谷市の副読本「わたしたちの越谷」に掲載された埼玉県全土の地形に関する地図を使い、越谷市のこの特色をとらえさせる方法をとりたい。

②越谷市は「水郷」である

特色ある地形として２番目にあげるべきは、自然河川や用水路、排水路が多くみられるということである。すなわち、元荒川、古利根川、綾瀬川、中川といった一級河川がある

ほかに、葛西用水、末田大用水、谷古田用水、新方川（千間堀）などの用水路や排水路が掘削され、古くから「水郷こしがや」と呼ばれるほどであった。

この特色は、越谷市の調節池・調整池から気付かせる方法をとる。

③越谷市は水田地帯から住宅地帯に変化した。

越谷市の土地利用はどのようになっているか。市の総面積は、60.31 ㎢で、県内 20 位である。越谷市資産税課がだしている資料『地目別面積の推移』を参考にすると、1980 年ではまだ田畑面積が全体の 51.5%を占めていたが、年々、宅地面積の増加が進み、2008 年には宅地が 35.9%、田畑が 26.9%となった。田畑が宅地や工業用地に変えられ、半減したのである。残りの 28.9%は「その他」となっている。市役所の方に話を伺ったところ、田畑が宅地や工業用地に変えられた結果、水はけが悪くなり、大雨の時は冠水のリスクが高まったということである。

古くからの集落は、古利根川、元荒川、綾瀬川の両岸に形成された自然堤防の微高地に畑とともに帯状に並び、後背湿地に水田が点綴状に分布していた。

自然堤防とは、河川の氾濫によって土砂などが溢れだしてできた高まりである。全国どこでも、自然堤防上に集落が形成され、宅地及び畑地として利用されてきた。越谷もこの例外ではなかった。そして、自然堤防の背後に、低地が後背湿地として広がっていたことも、他の地域と同様であった。後背湿地は、古利根川、元荒川、綾瀬川の氾濫によって形成された。

氾濫が収まるとともに水は引いていくが、一部の水は自然堤防のため河道に戻ることができず沼沢地となる。これが後背湿地である。後背湿地は、江戸時代以降、新田として開発され、用水路のみならず排水路も掘削された。千間堀なども用水路というよりは排水路として掘られたものである。この地方では「落とし」と呼ばれる。

用水路を引き、荒れ地を田に変える一方、落としを掘削して悪水を流し沼沢地を田に変えるという永年の営みにより、見渡す限りの水田地帯が出来上がった。越谷市は昭和 30 年代頃までそうした農村の面影をとどめていたのである。

ところが、東武伊勢崎線で北千住、浅草とつながり、さらに昭和 37 年、日比谷線が北越谷駅まで乗り入れたことにより都心に出やすくなった。そこで越谷市では、昭和 30 年代後半あたりから宅地化が進んだ。　これまでの水田地帯に工場や住宅が建てられ、東京のベッドタウンの様相を濃くしていったのである。武蔵野線の開通に伴う南越谷駅の開設（昭和 48 年 4 月）はこうした傾向に拍車をかけた。現在も水田が広がっている地域は、武蔵野線や東武線から遠く離れた増森、増林の 2 地区のみである。大相模地区から川柳、柿木といった地区にも昭和 50 年代までは水田が広がっていたのであるが、レイクタウン構想により昭和 60 年ころから開発がすすめられ、現在は越谷レイクタウン駅（武蔵野線；2008 年 3 月開業）を中心に住宅や大型の商業施設が広がり、かつての水田地帯の面影はわずかに残された水田や用水路から辛うじて窺えるのみである。

越谷市役所のホームページにある資料によって市の人口の推移を見ると、昭和 32 年がおよそ 4.7 万人。その 4 年後の昭和 36 年に 5 万人を突破し、昭和 43 年に 10 万人を超えた。7 年の間に人口が倍増したのである。さらに 7 年後の昭和 50 年の人口はおよそ 19 万人であり、昭和 52 年に 20 万人を超えるのである。すなわち、昭和 30 年代から 50 年代初めころまでは 7～8 年ごとに人口が倍増していたのであり、昭和 40 年代には年あたり約 2 万人の人口増があったことになる。30 万都市になったのは平成 10 年であるから 25 年かけての 10 万人増であった。1 年あたりにすると 4000 人ずつの増加であり、一時の急激な人口の膨張は収まったと言えよう。

④越谷の土地利用の変化は自然堤防―後背湿地をとらえさせることを困難にした

住宅や水田があるのはかつて氾濫原だったり後背湿地だったりした所、という押さえをさせることが考えられる。しかし、水田を宅地化するときに土盛りがされており、現在は後背湿地と自然堤防とを見分けることは難しくなっている。大学 8 号館前を流れる元荒川の対岸の土地利用が昔からの住宅及び畑地となっており、自然堤防であることが窺えるのだが、その背後はすでに水田ではなく住宅や店が建てられており、どこまでが自然堤防（微高地）であるか、どこからが後背湿地であるかを区別することは難しい。

⑤交通の便と土地利用

平成 25 年現在、越谷市の人口はおよそ 33 万人であり、さいたま市・川口市・川越市・所沢市に次ぎ県内 5 番目である。人口密度は県内で 16 番目である。昭和 32 年に 4 万人都市だったものが、およそ半世紀後に 8 倍の人口を持つ市になったのである。この人口増加には、上述したように鉄道網の整備が大きく関わっていた。

他方、自動車交通に関わる道路の整備状況、バス路線がどうなっているか見てみよう。

越谷市内には 4 号・463 号という 2 本の国道が走っている。またバス路線は、朝日バス、茨城急行バス、タローバス、国際興業バスなど、併せて 42 路線・69 系統ある。バスの定期券購入者も約 17000 人であり、バスは家と駅とを繋ぐ市民の大事な足となっている。

（3）児童について

本学級の児童は現在、3 年生になったばかりであるが、休み時間などに学区のようすを聞くと学校のまわりはもちろん、北越谷駅の周辺までよく知っている。親と一緒に商店街にあるスーパーに買い物に行ったり、駅の近くにあるコンビニやお菓子屋さんを利用したりすることが多いようだ。

また、休日には親と一緒に越谷レイクタウンまで足を運び、買い物をしている児童も多いようだ。

他方、春に元荒川の土手の上を親と花見で歩いたり散歩をしたりしているのだが、周辺の地形の微妙な違い―元荒川を背にして南に進むに従い、非常に緩やかにだが土地が低く

なっていくーやそれと結びついた土地利用の違いなどについては全く気付いていない。大学近くを通る国道４号線沿いにある家電製品量販店の近くには、わずかに水田が残っている。また、荻島小学校の南側には用水路があり、水田もかなり広がっている。かつての後背湿地が変えられたものと思われる。何人かの子どもたちは自転車に乗り、学区を超えてそちらまでザリガニを捕まえに行ったりしており、そうした水田を目にしているのだが、高い土地―低い土地と区別できるような地形になっていないため、その水田を手掛かりにして、子どもたちに土地利用と地形とを結び付けて考えさせることは難しい。

（4）指導観

そこで本単元においては、児童に、交通の便と商業施設や住宅の多いところとを関連付けて考えさせるところから始める。まず駅のまわりのようすと大学のまわりのようすを比較させ、駅のまわりには店や銀行、公共施設があるのに対し、大学のまわりにはほとんどが住宅であることに気付かせ、そのようになっているわけを考えさせ、土地利用は交通の便と関係があることに気付かせたい。

さらに、国道４号線の大通り沿いの土地利用の仕方も駅前と比べて考えさせたい。

北越谷駅だけではなく武蔵野線南越谷駅に直結している、東武伊勢崎線新越谷駅の周辺の商業施設も取り上げ、人が多く行きかうところほどたくさんの商業施設があることなども考えさせる。

単元の後半では、越谷市の地形や自然条件を捉えさせるために越谷市の調節池を取り上げ、その意味と仕組みを学ぶ。また、調節池は野鳥や魚などが生きる自然環境も整備されているため、そこから自然環境がどのように保全されているのかを学び、児童に自分が住む地域の良さに気付くようにしたい。

以上を踏まえ、次のような指導計画を立てた。

４．指導計画（５時間扱い）

次	時数	主な教師の働きかけ	資料及び指導上の留意点
1（学校のまわり―北	1	○学校のまわりと北越谷駅のまわりを比べる。 「駅のまわりにはどんなものが多くありますか？大学のまわりと比べてみましょう。」と、問い、その後 「なぜ、駅前は本屋や飲食店などの商業施設がたくさんあるのに、大学のまわりは住宅地なのだろ	・資料＝北越谷駅前の写真と大学のまわりの写真（それぞれ５枚ずつ）、北越谷地区・荻島地区が載っているマップ（上記の写真がどこのものかを解説するため） ・「駅のまわりにお店が多いのは、たくさんの人が集まりやすいからだ」という見方を一人ひとりに確実に持たせる。

越谷駅のまわり）		う？」と問い、その理由を考えさせる。 駅は、人が多く集まるから商業施設がたくさんあることを気付かせる。	
2（市内の他の駅と北越谷駅のまわり）	1	○北越谷駅と新越谷駅のまわりを比較する。 「他の駅のまわりにも北越谷駅前と同じようにお店がたくさんあるのかな？」と問い、新越谷駅のまわりもたくさんの商業施設が開店していることに気付かせる。 「なぜ、新越谷駅のまわりの方が北越谷駅のまわりよりお店がたくさんあるのだろう？」と問い、新越谷駅は武蔵野線南越谷駅に直結していることなども踏まえ、多くの人が乗り降りする駅のまわりほど、商業施設や公共施設が集中していることに気付かせる。 ○住宅や建物が多いところと、主な鉄道や交通の様子を白地図に書き入れる。 ○駅から離れたところに「コジマ電気やヤマダ電機など大きなお店があるのはどうしてだろう」という問いを投げかけて終わりにする。	・資料＝越谷市の白地図、北越谷駅のまわりと新越谷駅のまわりの写真（5枚ずつ。北越谷駅のまわりの写真は前時に使用したものを使う。）、国道4号線沿いのコジマ電気やヤマダ電機などが写った写真（3枚程度） ・「駅のまわりに商業施設や公共施設が多いのは、他の駅でも共通して言えることなのだ」という見方を一人ひとりに確実に持たせる。 ・「より人が乗り降りする駅のまわりほど商業施設や公共施設が多いのだ」という見方を一人ひとりに確実に持たせる。

3（なぜ、駅から遠いのに）	1	○「どうして駅から遠いところにロジャース、コジマ電気、ヤマダ電機といった大きなお店があるのだろう」という学習課題に対して、それらのお店が大きな道路沿いにあること、またどのお店も広い駐車場を持っていることに気付かせ、お客さんが車で来やすいところにそうした店が立地しているという結論を出させる。 ○さらに南越谷駅から少し離れた所に大きな工業団地がある理由を考えさせ、それは原料を搬入したり製品を搬出したりするのに便利な大きな道路があるからだ、ということに気付かせる。その後、そうした大きな道路が 4 号線や 463 号線、東京外環道や関越道、東北道などとつながっていることを地図によって確認させる。	・資料＝コジマ電気、ヤマダ電機、ロジャースを 4 号線を通る車まで含めて撮った写真。 ・「お客さんが車で来やすいところにそうした店が立地している」という見方を一人ひとりに確実に持たせる。 ・資料＝越谷市全体の道路マップに大型量販店をおとしたもの ・「南越谷駅から少し離れたところに大きな工業団地があるのは原料を搬入したり製品を搬出したりするのに便利な大きな道があるからだ」という見方を一人ひとりに確実に持たせる。
4（越谷市の地形と自然条件）	1	○越谷市の地形と自然条件（川がたくさんあること）を調節池を扱い、学習する。 越谷市にある大吉調節池と大相模調節池を紹介し、「なぜ、調節池はつくられたのだろう？」と問う。越谷市の地形と自然条件を副読本で理解させ、川を白地図に書かせる。また、越谷市の水害の歴史を紹介し、水害から地域を守るために調節池が作られていることを認識させる。 ○その後、「どのような仕組みで調節池に水を流し込んだり、出したりしているのだろう？」と、問	・資料＝副読本「わたしたちの越谷」、越谷市の白地図、大吉調節池と大相模調節池のパンフレット ・「水害から地域を守るために調節池が作られている」という見方を一人ひとりに確実に持たせる。 ・調節池の仕組みを認識させる。

		い、児童に予想を立てさせたうえで、調節池の仕組みを解説する。	
5（自分たちにできること）	1	○前時に扱った調節池の中心には浮島があり、生き物たちが自然のまま暮らすことができていることを挙げ、生き物たちが生活する環境を守りたいという思いがこめられていることを認識させる。そこに暮らす野鳥や魚などの生き物を紹介する。 ○大学の近くに住み、元荒川の自然を守ることに尽力している人にインタビューした様子を DVD で見せる。（出津橋付近の桜並木などの良さに気付かせる。） ○自分たちにも自然を守るために何かできることはないかを考える。	・資料＝DVD（インタビューのようす：10 分くらい） ・「生き物たちが生活する環境を守りたいという思いがある」という見方を一人ひとりに確実に持たせる。 ・主体的に自然を守るために何かできないかを考えさせ、小さなことから自然を守っていく認識をもたせる。

５．本時の学習（4/5時間目）

（１）本時の目標

・地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

（２）評価規準

・越谷市における土地利用や地形の様子に関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことが出来た。（ア　関心・意欲・態度）

・観察したことを的確に白地図に表現したり、教師が提示した写真から何らかの特徴を読み取ったりすることが出来た。（ウ　観察・資料活用）

・越谷市の調整池・調節池は地形と川に関係のあること、また調節池が巧みに自然環境を作り出していることが分かる。（エ　知識・理解）

（３）準備

・越谷市の白地図

・越谷市の副読本「わたしたちの越谷」

・大吉調節池のパンフレット

・大相模調節池のパンフレット

・大吉調節池と大相模調節池の写真

（４）展開

過程 （時配）	教師の 指導	児童の活動	☆指導上の留意点 ★評価
事象提示（１０分）	○事象提示 ・副読本「わたしたちの越谷」の中の「空から見たわたしたちの越谷市（１）（２）を見せ、調節池を探させる。 「これは、越谷市を真上から撮影した地図です。皆さんが今いる文教大学小学校も載っています。さて、この地図の中から「調節池」と書いている池を二つさがしてみてください」 「見つけられた子は、近くにいるまだ見つけられていない子におしえてあげて」	○事象との出会い ・越谷市の航空写真から「調節池」というものがあることを知る。 ・見つけられた子はまだ見つけられていない子に教えてあげる。	☆すぐに見つけられる子と見つけられない子がいるので、すぐに見つけられた子はほかの子に教えてあげるようにする。 ☆全員が「調節池」の位置を把握しているか確認する。

	・大吉調節池と大相模調節池の写真を見せる。 「では、この調節池というものをもっと近くで見てみたいと思います」 〇課題提示 発問：「調節池というものは、人工的に作られたものです。なぜ、これらの調節池は作られたのでしょう？」	〇課題を把握する。	☆黒板に貼って全体に見せるか、一人一人に見せるかは小学校の施設による。
予想（5分）	〇予想を立てさせる ・個人で予想を立てた後、隣の人同士で考えを発表させあう。	〇予想をたてる ・個人で予想を立てた後、隣の人同士で考えを発表しあう。	☆どのような予想が出ているか、机間指導で把握する。

越谷市の地理的・歴史的な条件の説明（15分）	○越谷市の副読本「わたしたちの越谷」の中の「埼玉県の地形」を見せて越谷市は低地であることを捉えさせる。 ○越谷市の副読本「わたしたちの越谷」の中の「わたしたちの学校と越谷市」を見せながら、越谷市の白地図に越谷市の川を書き込ませる。 ○「低地で川がたくさん流れていることが分かりましたね。このような条件でもし、大雨が降ったら町はどうなってしまうかな？」 ○「実際に越谷市では過去に数回、川が氾濫してしまったことがありました」 ・昭和 57 年 9 月の台風 18 号や昭和 61 年 8 月の台風 10 号で河川が氾濫し、大水害に見舞われた歴史を説明する。	○越谷市の副読本「わたしたちの越谷」の中の「埼玉県の地形」を見る。 ○越谷市の副読本「わたしたちの越谷」の中の「わたしたちの学校と越谷市」を見ながら、越谷市の白地図に越谷市の川を書き込む。 ・越谷市は低地でなおかつ川がたくさん流れている地理的条件をおさえる。 ○越谷市の地理的条件をおさえたうえで、大雨になると川が氾濫してしまう危険があることを予想する。	☆目立ちやすいように色鉛筆かマーカーで川を書かせる。 ★観察したことを的確に白地図に表現できたか

まとめ（15分）	○「では、越谷市の地理と歴史を踏まえてなぜ調節池が作られたのか予想してみよう。」 ○まとめ ・「調節池は河川の氾濫から土地を守るために作られたことが分かりましたね。」 ○「どのような仕組みで川の水を入れたり出したりしていると思う？隣近所の人と話し合ってみよう」 ○大相模調節池と大吉調節池のパンフレットを参考にしながら調節池の仕組みを解説する。	○越谷市の地理的条件・歴史的条件をあさえたうえで、初発問に戻り、なぜ調節池は作られたのか予想する。 ○隣近所の人と話し合う。	★越谷市における土地利用や地形の様子に関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことが出来たか。 ★越谷市の調整池・調節池は地形と川に関係のあることが理解できたか。 ☆大相模調節池と大吉調節池の仕組みの違いについても説明する。

（５）板書計画

（６）資料

・越谷市の白地図
・越谷市の副読本「わたしたちの越谷」
・大吉調節池のパンフレット
・大相模調節池のパンフレット
・大吉調節池と大相模調節池の写真